

2007 年度

科目名 生理解剖学 B	対象学科・学年 人間社 1 回生	担当者 児玉 公正
授業テーマ 人の身体の構造と機能について理解を深める		
授業の概要と目標 身体の機能を知るためには、構造の理解が必要であり、その相互の関係について講義する。 生理解剖学 A と B とで一連の系統講義を行う。知識の整理と疑問から学習への意欲を高めるために、講義の最初にビデオを用い、また、テキストを講義前後に熟読されたい。そして、その都度、知識を確実なものとしていく。このような身体の構造と機能を知ること、保健領域で学ぶこと、あるいは、保健分野の専門家になるための基礎となるので、留意されたい。		
評価方法 中間または学期末の定期試験 出席及びビデオレポート		
テキスト イラスト図解 人体のしくみ	著者 坂井建雄	出版社 日本実業出版社
参考書	著者	出版社
授業スケジュール・内容 生理解剖学 A と B とは一連の講義内容となる。講義では、動機付けに NHK で放映された「人体」を教材に用いる。テキストの予習とあわせて、簡単なレポートを作成後、関連した内容の講義を行う。その際に、追加の資料を用いて講義する。 B では、おもに、ヒトが身体を維持するための「ホメオスターシス」を主眼において、不要物の排泄に関係する腎臓、調整の中枢である神経や感覚器、ホルモン、免疫、そして次世代への受け渡しの生殖・遺伝といった近代医学で発展してきた内容を中心に行う。それぞれの内容に関連する医学的なトピックスも適宜、補足していく。 順番に暗記していくといった通常の知識習得でなく、どうなっているのだろうか？という疑問を解決していくような内容であるので、細かい知識を記憶するだけでなく、全体中での位置づけを知るように学習されたい。また、随時、知識を確かな物とするために、実際の指導現場の経験をふまえて、疾病に関する内容にもふれていく。 各領域 1～6 は、一つで 2 コマ分の講義内容を予定している。 1. からだの老廃物をすてる 腎臓の構造と機能 尿生産および排泄のメカニズム 2 および 3. からだの機能を調節する 神経系の構造と機能 内分泌系の構造と機能 神経伝達のメカニズム ホルモンの働きと作用 4. 外界からの情報を収集する 感覚器の構造と機能 音や光、振動など、感じるメカニズム 5. 身体を守る 免疫系の構造と機能 病原菌からからだを防御するメカニズム 6. 次世代にヒトの情報を伝える 生殖器の構造と機能 遺伝のメカニズム ※途中、中間試験を組み入れ 15 回の講義とする。		